

マイペンライ 通 信

編集・発行 アジア保育教育交流推進実行委員会
(略称：大阪マイペンライ)

http://cwoweb2.bai.ne.jp/osaka_maipenrai/index.html

2013年9月25日

No. 90

TEL 072-645-7772
(森代表事務所)

FAX 06-6581-8536
(部落解放同盟大阪府連)

事務局 090-3948-8372 (稲葉)
Jge17901@cw2.bai.ne.jp

結成20年をむかえ、活動の終了、 大阪マイペンライの解散を提案します

実行委員会・3団体での議論を経て、総会で提案します
総会は10月30日、PLP会館で

大阪マイペンライ実行委員会(役員会)は、2013年3月29日の第1回実行委員会で大阪マイペンライの今後のあり方について議論することを提案し、3つの団体会員(大阪府教組、部落解放同盟大阪府連、自治労大阪府本部)での議論もいただきながら、3回にわたって議論した結果、「大阪マイペンライの活動を2012年度を持って終了し、会を解散すること」を総会において提案することを決定いたしました。会員のみなさんには突然の「解散提案」であり、驚かれた方も多いと思いますが事情をご賢察いただき、ご理解いただきますようお願いいたします。

21回総会は下記の日程で開催いたしますので、多くの皆様のご参加をいただき、ご意見いただきますようお願いいたします。(会員の皆様にはあらためての通知は差し上げませんので、ご了承ください。)

《総会提案の趣旨》

大阪マイペンライは1993年4月に結成されて以来、大阪府教組、部落解放同盟大阪府連、自治労大阪府本部の3組織を中心としながら、多くの団体・グループ・個人の皆さんの支えをいただき、また、シャンティ国際ボランティア会(SVA)、ドゥアン・プラティープ財団(DPF)やシーカ・アジア財団の協力・連携のもと、活動を進めてきました。

アジア、とりわけタイの子どもをとりまく状況は発足当初から改善しているものの、依然、都市とスラム、都市と農村の格差はあり、子育て・子育ち、教育、保育をとりまく課題は山積しており、なお、NGO団体の役割は重要な位置を占めています。

このような中で、大阪マイペンライの20年間を顧みるとき、交流活動の積み重ねによって大きな役割を果たし、かつ、その活動は現地の団体やスタッフに受け継がれていると考えます。とくに、研修事業や招聘研修を通じて、現地の協力団体のNGOスタッフのスキルアップが図られ、保育・教育にかかわる内容の充実し、その研修内容が、NGOだけでなく、周辺地域の保育・教育関係者の中でも評価され、活用されていると思います。

さらに、招聘研修やスタディツアーでの交流事業によって、私たちにアジアの現状を知らせるとともに、現地の人々と交流した大阪の教育・保育・人権などにかかわるスタッフもアジアの人々から多くのことを学ぶことができたと思います。

2013年第21回総会を10月30日に開催します。

会員(個人、団体)の皆さんの参加をお願いします。

日時：2013年10月30日(水)午後6時30分～

場所：PLP会館4階 中会議室

**議事：経過報告 2012年度経過報告と決算
(総会当日配布)**

**第1号議案 結成20周年を迎えての総括と方向
(提案内容 P2～P10)**

第2号議案 その他

一方、スタディツアーの参加者数はピーク時に比べ下降傾向にあり、絵本を送る活動についてもボランティア参加者数が減り、絵本作成数も減っているのが現状です。また、その時々を選択した取り組みの仕方の部分もありますが、招聘研修とツアーとも対象国を1カ国とする形となっており、結果として活動の範囲も狭まっているのが現状です。

このような状況の中で、大阪マイペンライの今後について考えた場合、会及びそこに参加する諸団体のおかれている状況、事務局を中心とした運営の困難性を考慮しつつ、20周年を到達点として会の活動を総括して、会の活動を2012年度を持って終了し、2013年度中に解散することを提案いたします。

大阪マイペンライ 2013 年度 第21回総会 (2013.10.30)

総括と方向(案)

アジア保育教育交流推進実行委員会

(以下の提案文については総会当日までに一部修正することがありますのでご了承ください。)

第1号議案 結成20周年を迎えての総括と方向

I 大阪マイペンライのこれまでとこれから

1 大阪マイペンライの結成

大阪マイペンライは1993年4月に結成されて以来、部落解放同盟大阪府連合会、大阪府教職員組合、自治労大阪府本部の3組織を中心としながら、多くの団体・グループ・個人の皆さんの支えをいただき、取り組みを進めてきました。また、協力団体として、日本においてはシャンティ国際ボランティア会(SVA)、タイ・カンボジア・ラオスではドゥアン・プラティープ財団(DPF)やシーカ・アジア財団の協力・連携のもと、活動を進めてきました。

アジア保育教育交流推進実行委員会(以下、大阪マイペンライ)結成の契機は、1990年の国際識字年でした。「国際化」が叫ばれ、「日本の国際貢献」「アジアの中の日本(と日本人)」が大きなテーマになっている中、私たちは、それぞれの団体が反差別・人権擁護の立場で国際交流を進めてきましたが、国際識字年を期に活発化したアジア太平洋各地の識字運動・民衆教育運動との交流が拡大し、草の根の人権教育関係者のネットワークづくりが進められていることに注目しました。そこで私たちは、大阪の部落解放運動や同和保育・教育の経験を積極的に紹介し、タイ・インドシナ地域をはじめとするアジアの民衆教育運動との相互交流・支援を活発化させることを目的に、大阪マイペンライを結成しました。

地球上には多くの成人識字者(読み書きの機会を奪われた人)や学校へ行けない子どもたちが存在しているが、その地域の大半が、タイ・インドシナ地域をはじめとするアジアの国・地域です。アジアのスラムや農村の子どもたちは、貧困と差別の中で生きる権利すらおびやかされているのです。このような、アジアの子どもたちがおかれている状況をふまえつつ、アジアの地域の教育・生活・福祉の環境を整備することが緊急の課題と認識し、取り組んできました。

2 互いに学びあう交流

大阪マイペンライは結成時、申し合わせ(規約)の中で、「目的」を次のように明記しています。

「目的(抜粋):本会は、(中略)アジア各国のスラムや農村の子どもたちのきびしい現実を直視し、(中略)アジアの各地の民衆教育や児童福祉にかかわる人々との草の根交流とネットワークの形成をめざす。そして、これらの取り組みを通じて、アジア各地の学校や保育所をはじめ地域の教育・生活・福祉の環境を整備し、同時に日本の子どもたちがアジア市民として育まれるよう多文化共生の保育・教育の一層の推進をめざすことを目的とする。」

大阪マイペンライは、支援する側、される側という一方的なものではなく、一人一人お互いの顔が見える関係、お互いに学びあい相互に助け高めあえる関係を築き上げることをめざしました。

大阪マイペンライの主要な事業としては、人材育成を目的とした「サワディ基金(奨学金)」の取り組み、相互に交流し学びあう「招聘研修事業」、顔の見える交流としての大阪からの「スタディツアー」、大阪のできる国際交流としての翻訳絵本の提供を目的とした「絵本プロジェクト」です。

また、節々の周年事業としては、5周年事業の「保育・教育セミナー」、10周年事業の「障害児保育・障害者の生活から学ぶワークショップ」・「自立をめざすアジアの子どもたちの国際交流事業」、15周年記念事業としてスタートし、4年間実施した「国際ボランティア貯金寄附金助成」による「タイ保育研修事業・学生寮等整備事業」に取り組んできました。

さらに、現地団体と「障がい児保育教育セミナー」を開催して互いに学びあう取り組みや、アジア子ども文化祭への子どもを中心とした太鼓集団の参加による文化交流などを行いました。

これらの日ごろからの顔の見える交流の中から、それぞれの国で自然災害や大火災が起きた時には相互に支

援の活動が取り組みられました。日本で起きた阪神淡路大災害時にはスラムで集められた貴重なカンパが届けられました。スマトラ沖地震による津波被害に対しては、大阪の団体・個人から多くの義援金が寄せられました。

3 結成 20 周年を迎えて

このような中で、大阪マイペンライは2013年に20周年の節目の年を迎えました。

サワディ基金によるNGOスタッフへの給付（一部貸与あり）は20年間で37名に上ります。その結果、高等教育や専門教育で得た知識、技術を現地のNGOで活かし、現在でも活躍されている方が多くおられます。現地のスタッフの中には厳しい生活環境の中で働いておられる人も多く、基金の必要性は継続しています。

招聘研修は20回実施し、110名（同行・通訳を含む、以下同じ）を超えるNGOスタッフが大阪を訪れ、大阪府各地で職場や地域の人々、子どもたちと交流しました。招聘研修で大阪に来たスタッフたちは、帰国してその成果を自らの職場・地域で活用し、NGOで中心的な役割を担っている人もいます。

招聘研修で来日したスタッフから、アジアの国々の文化を学ぶとともに、大阪の子どもたちの現状に対する貴重な意見、見方を受け止めることができました。また、招聘研修で子どもたちは現地のスタッフから、現地の遊びなどを学び、それを通じ直接外国の文化に触れることができました。教科書だけでは学べない機会を提供できたことは大きな成果と言えます。

スタディツアーは18回実施し、280名を超える大阪のメンバーがタイ、カンボジア、ラオスのスラム・農村でホームステイや文化交流などの交流を実施しました。スタディツアーに参加した人の多くは大阪の現場・地域で働き、生活する人で、従来の交流に見られるような幹部や活動家のみでの交流におちいっていない、特色ある交流の形と言えます。その結果、交流でそれぞれが見聞きしたことが、即、現場・地域で活かされたのではないかと考えます。

子どもツアーも5周年記念事業としてスタートし、約80名の子どもたちが参加しました。ツアーに参加した子どもたちは現地の子どもたちと交流し、ホームステイなどを経験する中で、お互いの文化や生活の違いを実感することができてきました。保護者の方から「子どもの生き方が変わったのでは」との感想もいただきました。

これらの相互の交流においてはそれぞれの国の子どもたちがおかれている現状を率直に出し合い、その課題を理解する中から、一方的にどちらかが学ぶという関係ではなく、お互いに学びあう交流を実現できたのではないかと考えます。

現地でのセミナーや研修事業では大阪のスタッフが講師として参加しましたが、これも一方的に大阪（日本）の保育や教育のあり方、やり方をそのまま現地の導入するのではなく、現地の現状や文化に即した形で活用していくことを基本として進めました。

15周年記念事業で実施した現地での研修事業は、講師の皆さんの努力もあり、NGOのスタッフのみならずバンコク周辺の保育・教育関係者の参加を得て好評でありました。公開保育研修事業は出前研修であり、現場のスタッフが直接大阪の保育内容に触れることができるもので、この結果、様々な形で保育・教育現場で活用、応用されています。

また、シーカーアジア財団に設置した「保育教育教材開発センター」はこれらの研修事業で得た保育内容や保育教材を活用、応用するための拠点であり、現地のスタッフが講師となって指導的役割を果たしています。

絵本活動は、大阪に居ながらにして誰にでもできる国際交流として取り組み、市民の方の参加も含めた活動として定着しました。また、ボランティアグループや団体会員組織による、自主的で地道な絵本活動も取り組みられました。この結果、タイ語、カンボジア語、ラオス語のシールを貼った多くの絵本が子どもたちに届けられました。

すべてをやり終えたという事はできませんし、まだまだ交流してお互いが学びあうことがあることは言うまでもありません。この20年間の活動について検証は様々な視点があると思いますが、大阪マイペンライ結成当初の目的や当会がめざしてきたものを質的、量的に具体化することができたかを考えた場合、大阪マイペンライの活動は一定の水準の成果を実現できたのではないかと考えます。

4 今後の方向についての提案

アジア、とりわけタイの状況は発足当初から改善しているものの、依然、都市とスラム、都市と農村の格差はあり、子どもの子育て・子育て、教育、保育を取り巻く課題は山積しています。タイにおいては、様々な人々の努力によって行政による施策の実施が図られていますが、なお、NGO団体の役割は重要な位置を占めています。

このような中で、大阪マイペンライの20年を顧みるとき、活動の継続には現地の諸団体の理解、協力なしには語れませんが、活動の積み重ねによって大きな役割を果たし、かつ、その活動は現地の団体やスタッフに受け継がれていると考えます。招聘研修によって多くのNGOスタッフのスキルアップと交流の輪が広がり

ました。スタディツアーでの交流（子ども含む）は私たちにアジアの現状を知らせるとともに、豊かさの意味を問うものとなりました。絵本活動によって多くの絵本を子どもたちに届けることができました。また、大阪マイペンライの活動に参加し、現地の人々と交流した大阪の教育・保育・人権などにかかわるスタッフもアジアの人々から多くのことを学ぶことができましたと思います。

そのような中で、活動の現状と到達点を考えたとき、招聘研修によって100名を超えるスタッフを招くことができ、スタディツアーでは子どもを含めて360名を超えるメンバーがアジアで交流するなど、大きな成果を残しています。一方、スタディツアーの参加者数はピーク時に比べ下降傾向にあり、絵本を送る活動についてもボランティア参加者数が減り、絵本作成数も減っているのが現状です。また、その時々を選択した取り組みの仕方の部分もありますが、招聘研修とツアーとも対象国を1カ国とする形となっており、結果として活動の範囲も狭まっているのが現状です。

また、相互交流事業や研修事業を通じて、現地の協力団体のNGOスタッフのスキルアップが図られ、保育・教育にかかわる内容の充実が一定はかかれたと言えるのではないかと考えます。その研修内容が、NGOだけでなく、周辺地域の保育・教育関係者の中でも評価され、活用されていると思います。

このような状況の中で、大阪マイペンライの今後について考えた場合、会及びそこに参加する諸団体のおかれている状況、事務局を中心とした運営の困難性を考慮しつつ、20周年を到達点として会の活動を総括して、会の活動を2012年度を持って終了し、2013年度中に解散することを提案いたします。

II 取り組みの経過と現状

1 サワディ基金の取り組み

サワディ基金は1993年に設立し、94年に支給を開始しました。この基金は、タイのNGOの職員で農村やスラムの保育所・幼稚園で働きながら、夜間の専門学校や大学で学んで保育士・教師などの資格取得を目指す若者たちに対して、年額1万バーツ（約3万円）を支給することでスタートしました。

基金はクラフトの売り上げ、大阪の団体からの寄付を財源にし、これらの資金をこれまで94年に70万円、96年に50万円、2001年に50万円、2003年に200万円の総計320万円を現地に送金し、現地のシーカーアジア財団とドゥアン・プラティープ財団に預託し、その運用を依頼しています。

基金の運用に当たっては両財団と「運用規定」を交わし、その規定に基づいて両団体から推薦を受けた現地NGOのスタッフの奨学金として給付されています。この奨学金事業が発足した当初は多くのスタッフへの奨学金給付が行われていましたが、その後、奨学生選考の規定が厳しいため給付対象者が減少しました。そのため、運用を委託しているタイの2財団からの要請もあり、選考規定の緩和を行って、継続して給付し現在に至っています。1994年に支給が開始されて以降、サワディ基金を受けた現地のスタッフは実人員で37名に上っています。

おかれている環境のため十分な教育を受けられないまま両財団で働いている人で、高等教育や専門教育を希望するスタッフへの就学費用の一部を助成する制度であり、この20年間で多くの人に利用されてきました。その結果、高等教育や専門教育で得た知識、技術を現地のNGOで活かし、現在でも活躍されている方がおられます。

一方、近年は、奨学金給付の選考規定を緩和したものの給付対象者が減少しています。大阪で多くの団体、個人からいただいた寄付を蓄積し、その経費に充当してきましたが、現地・大阪とも多額の残金がある状況です。

サワディ基金の資金については、2012年度末（2013年7月末）で現地に約42万バーツ（約135万円）が残っており、大阪で保留している資金は約132万円となっています。

2 招聘研修の取り組み

1993年に招聘を開始して、実施当初は、タイからだけの招聘でありましたが、その後2か国の招聘となり、タイは毎年招聘し、もう1国はカンボジアかラオスという招聘の方式が続きました。1993年度から2012年度までに毎年途切れることなく20回実施し、延べ112名を招聘し、大阪各地の職場地域で研修・交流する事業として取り組んできました。内訳は、現地のスタッフがタイ 53名、カンボジア 17名、ラオス 8名で計 68名、同行通訳が計 34名です。

大阪での交流は一つのグループが3か所ずつの職場・地域で交流するという形で、現場で受け入れることで、多くの人々との大衆レベルの顔の見える交流が実現しました。

2011年度の総会で、「招聘国を現状の1年2カ国（タイと、カンボジアかラオスからの招聘という方式）を見直し、1年1カ国の招聘とする。タイの2つの協力団体（シーカーアジア財団とドゥアン・プラティープ財団）を1年ごとに交代で招聘する」「招聘期間の短縮については検討課題とし、毎年3つの団体による受け入れという方式を基本としつつ、1つの団体が1つの国を2泊3日の期間で受け入れる形で実施する」との見直しを行いました。

同行通訳は、現地のスタッフにお願いする形で実施しています。ただ、招聘国によっては2週間の同行が困難な場合があり、東京のSVAスタッフが対応することもありました。

大阪での受け入れについては、当初は個別に職場や地域に受け入れを依頼する形で進められたようですが、1999年度ごろから3つの団体会員（教組、同盟、自治労）がそれぞれ2つの単組・支部・地域に受け入れを依頼する形が定着しています。（2011年度からは1か国となったため、1つの組織で受け入れ）

昨年度まで、累計約113の単組・地域・支部で受け入れが行われました。20年（回）にわたる受け入れであり、繰り返し受け入れをいただいている組織も多くあります。また、宿泊については多くのところでホームステイでの受け入れをしていただき、直接日本の家庭の雰囲気、文化に触れる機会を作ることができました。

3 スタディツアーによる現地交流の取り組み

これまで、大阪の保育・教育をはじめとした現場のスタッフが直接アジアのNGOの仲間と交流することを目的に1993年度にスタートし、2012年度まで実施してきました。

1993年に第1回を実施して以降、2つの年度の未実施あるいは中止（2001年度の同時多発テロおよび2008年度のタイの政情不安を理由としたもの。）を除き18回実施し、延べ259名が参加しました。93年度から2002年度ごろまでは20名前後の参加がありましたが、その後は10名台にとどまり、最近の年度は10名以下の参加となっています。1週間のツアーであり、職場の休みを取るものの困難性もあり、参加者が減少しています。

ツアーの実施に当たっては、現地のSVAおよびシーカーアジア財団に受け入れをいただき、企画、手配、同行をお願いしています。

行き先は、当初からタイとカンボジア・ラオスのどちらか2か国で実施し、タイは北・東北・南・西の各地域を行き先としていました。2004年度からは参加人数が減少した関係もあり、1か国の実施が多くなっています。2011年度の総会で、「行き先国については1か国として募集する。ツアーの目的・日程について、毎年検討し、協力団体と事前協議して実施する。募集時期の繰り上げなどの努力を行い、参加費の減額をめざす。」との見直しを行いました。

経費は基本的には参加者負担で、余裕があれば一部当会への寄付も頂いていますが、経費がかさむ場合はぎりぎりの決算となったり、赤字となったこともありました。

4 子どもたちの交流の取り組み

スタディツアーをはじめとした子どもたちによる交流活動も取り組まれました。

(1) 子どもツアーの取り組み

子どもたちのスタディツアーは結成5周年記念事業として、1998年に夏休みの時期に初めて実施し、現地のスタッフの同行をいただき、タイの農村でのホームステイの体験や文化交流など貴重な経験となりました。

子どもツアーは4年間の未実施がありますが2012年度まで11回実施、スタッフ・同行も含めて延べ80名が参加しました。この人数は2001年度の実施した「自立をめざすアジアの子ども国際交流事業」も含まれています（スタッフ含め26名が参加）。年度ごとの参加人数は10名以下で、2名となった年度もあります。

行き先は基本的に北タイですが、2001年度の事業は北タイ・西タイ・東北タイで実施しました。

経費は参加者負担ですが、多くの子どもたちの参加をめざして、同行・通訳者の経費の一部を当会が負担する形で参加費を減額しており、このため、参加者が少人数となった場合の経費が赤字となる場合が多くあります。

(2) アジア子ども文化祭への参加

シャンティ国際ボランティア会の要請を受けて、タイで開催された「アジア子ども文化祭」に子どもたちを中心として大阪の太鼓集団が参加し、アジアの子どもたちとの文化を通じた交流が実現しました

1999年（10月）の第4回アジア子ども文化祭には、部落解放同盟矢田支部の太鼓「夢幻」が参加し、経費の一部をカンパしました。2000年（10月）の第5回には部落解放同盟北芝支部の太鼓が参加しました。

(3) 「自立をめざすアジアの子ども国際交流事業」（社会福祉医療機構助成事業）

タイでの異文化体験を通じて、様々なしんどさを抱えている子どもたちが元気さを取り戻してほしいと、登校拒否など社会の中で押しつぶされそうになっている子どもたちを対象としたツアーを企画し、子どもたち20名が参加し、スタッフ6名とともにタイの次の3コースでの交流を行いました。

北タイ（パヤオ、8人）、東北タイ（バーンサワイ、7人）、西タイ（カンチャナブリ、5人）

子どもたちはタイの農村の「貧しい生活」にショックを受けながら、次第に緊張した顔が和らぎ、「また

行ってみたい」という言葉、笑顔を大阪に持ち帰ってきました。

この子どもたちの国際交流の取り組みの報告セミナーを2002年3月に開催しました。セミナーでは現地での交流の様子がビデオで流され、SVAの現地責任者を迎えたシンポジウムを行い、その成果を確認しました。交流事業とセミナーの内容をまとめて報告書を作成しました。

5 絵本を送る活動の取り組み

絵本活動は、大阪において誰にでもできる国際交流として1993年から取り組みを開始し、市民の方も参加できる活動として定着しました。また、この取り組みは、ボランティアグループや団体会員組織による、自主的で地道な絵本活動へと広がりました。これらの活動で作成された各国の翻訳シールを貼った絵本は、スタディツアーの参加者によって現地の保育園や図書館に届けるとともに、ツアーに行かない国の絵本は海外小包で送付しました。送られた絵本の冊数は集計できていませんが1年で平均200～300冊に上るのと思われます。

大阪での翻訳絵本は、自治労大阪府本部の会議室での、大阪マイペンライ主催の月1回の（第3木曜日）の活動と、大阪を中心とした4つのボランティアグループによる活動によって作られました。また、自治労大阪市従市民生活支部や自治労大阪市職北区役所支部では、独自の国際貢献の活動として絵本作りが行われました。長年活動していただいていたボランティアグループのうち、2012年2つのグループが活動を停止しました。翻訳絵本を作成数も減少傾向にあり、自治労大阪府本部での毎月のボランティア活動は市従市民支部に毎回参加いただき続けていますが、参加人数は少なくなっています。この活動は中心となる人の地道な努力の上に成り立っており、限界もあります。

絵本ボランティアグループ

大阪マイペンライ主催の活動（市従市民生活支部、一般市民の皆さんが参加）

「アンコー会」（もと浪速絵本グループで大阪教組女性部などが参加）

カンボジアに絵本を送る富田林連絡会、

マイペンライ茨木（現在休会中）、マイペンライ兵庫（解散）

絵本作りのボランティアの参加者の数は決して多くありませんが楽しんで作業が続けられてきました。また、参加者の中からスタディツアーへ参加されたり、逆にツアー参加を機に絵本作りにこられたりと、いずれも子どもたちに絵本を！という気持ちが継続につながってきました。

絵本活動の進め方として、2011年度総会で「SVAの協力を得て進めてきた『カンボジア語・ラオス語の絵本を直接届ける方式』の継続は困難と判断し、タイ語については、シーカーアジア財団と協議しつつ、取り組みを継続する。」「著作権上問題がある絵本のタイトルについては作成対象からは除外する。」「子どもによりよい絵本を提供することを基本に、貼り間違いなどのチェック、翻訳の質の向上など翻訳絵本の品質の改善を図る」などの見直しを行いました。現地の保育園などで必要とされている絵本がタイトルや数量にどれだけ応えられていたかも課題でありました。

7 記念事業、セミナーなどの取り組み

結成の周年事業の節目などで次のような事業を行ってきました。

(1) 5周年記念「第1回保育・教育セミナー」

5年間の交流を経て、互いが感じているそれまでの疑問を出し合いもっと知りあうことをめざし、1999年8月、大阪で「子育て・子育ての現状と課題」などをテーマとしたセミナーを開催しました。現地からは北タイ（パヤオ）、東北タイ（バーンサワイ）、バンコク（シーカーアジア財団、ドゥアン・プラティープ財団）の4名のスタッフと通訳が来阪し、大阪の実行委員会のメンバーとの2日間の討論を行いました。

このセミナー開催の招聘費用については、独自に作成した絵葉書の販売で補いました。

このセミナーではタイのメンバーから教育制度や就学全教育にかかわるセミナーをタイの現地で開催してほしいとの要請があり、翌年の第2回セミナーの開催につながりました。

(2) 第2回保育・教育セミナー

1998年の第1回のセミナーを受けて、「地域運動」「障害児保育・教育」の2つのテーマで、2000年3月バンコクでセミナーを開催しました。セミナーには大阪から、研究者、教育・保育関係者ら5名が参加、タイ側は、ドゥアン・プラティープ財団、シーカー・アジア財団のスタッフがタイ各地から集まり、参加者が70名に上りました。タイの障害者団体からのレポートも受け、互いに学びあう活動となりました。

(3) 障がい児保育セミナー

2002年9月、大阪の教育・保育関係の有志による障がい児保育セミナーが東北タイ・バーンサワイで開催されました。セミナーには研究者、障がいを持つ子どもの保護者、保育者などが6名が参加して大

阪の現状を報告しました。現地では村の障がい児・者の生活を支える村人の姿を学びました。

(4) 10周年記念「障害児・障害者の生活に学ぶワークショップ」「アジアに学ぶスタディツアー」

結成10周年記念事業として、2003年12月、毎年実施している「アジアに学ぶスタディツアー」あわせて東北タイで「障がい児保育・障がい者の生活に学ぶバーンサイ・ワークショップ」を開催しました。スタディツアーは東北タイとラオスのコースで実施し、2日間のバーンサイのセミナーには大阪の保育関係者など7名が参加しました。

現地のスタッフには保育園に障がい児を積極的に受け入れようと姿勢が見られ、障がい児保育の意義を改めて学ぶ取組みとなりました。

8 研修事業の取り組み

結成15周年記念事業として、「国際ボランティア貯金寄附金配分」の助成事業に応募して、タイ現地での研修事業を実施しました。その事業は、これまでの大阪で子育てにかかわってきた経験を活かし、タイ国内のスラム地区および少数民族の居住地域の保育園および図書館における保育・教育・図書館事業の支援を目標として、現地のNGOと連携し、研修事業の充実を通じてスタッフのスキルアップを図ることを目指したものです。また、子どもたちが幼い頃から友だちとあそびを共有し、想像力や思考力を積みあげるあそびの活動の場として保育所や図書館活動の充実が重要と考えました。

(1) 「保育士、図書館スタッフのスキルアップ研修、保育園への図書コーナー設置並びに保育園・図書館へ図書・教材の提供」事業

2008年度は研修事業として、タイの保育園や図書館スタッフを対象として、バンコクとミャンマー国境地域のターク県でのスキルアップ研修を実施しました。また、両地域の保育園などに図書コーナーの設置や絵本・教材などを提供しました。

(2) 「少数民族の初等教育整備のための学生寮建設及び保育園の改修」事業と「スラム地区、少数民族居住地域の保育園・図書館スタッフのスキルアップ研修の実施及び保育・幼児教育センターの設置」事業

2009年度は08年度と同様の研修事業を実施するとともに、バンコクのスラムにあるNGOの敷地内に「保育教育教材開発センター」を設置し、研修事業で得た保育内容や保育教材を活用、応用するための拠点としました。

また、2つ目の事業として、ターク県の小中学校内に学生寮を建設するとともに、山岳地域にある保育園を改修し、教育環境の整備の一助としました。

(3) 「スラム地区の保育園での公開保育、保育園・図書館スタッフ研修の実施」事業

08年度、09年度の研修事業の実施の中から、実際に保育園などの現場で研修してほしいとの要望を受けて、バンコクの保育園などでの「公開保育研修」事業と親子を対象とした「親子保育」事業を実施しました。

(4) 「保育スタッフ研修及び親子保育研修」事業

2011年度には10年度と同様の「公開保育」事業と「親子保育」事業を実施するとともに、この間の研修事業の集大成として、シーカーアジア財団の協力のもとタイの保育・教育関係者とともに「シンポジウム」を開催しました。

研修事業の実施の中で、①子どもと共に活動することの重要性、②生活の中の廃材を活用することで子どもたちに必要な教材が確保できること、③届けられる絵本だけでなく、自らで絵本を作り出せることが実感され、研修に参加した各地の保育園・図書館スタッフへと広がりました。

大阪マイペンライはこの4年間の事業を通して、こどもの育ちを豊かにすることをめざして取り組むスタッフの姿勢に大きく学ぶことができ、大阪の子育ち・子育ての現場にも活かすことができました。国は違いますが、子どもたちや保育現場・子育て・子育ての現状を出し合いながら、互いが学び合える交流活動となりました。

15周年記念事業の4年間で実施した現地での研修事業は、大阪の子育ち・子育てにかかわる保育士、絵本にかかわる研究者など多くの講師の皆さんのご協力により実施できたものです。この結果、研修事業はバンコクのシーカー・アジア財団のスタッフのみならずバンコク周辺の保育・教育関係者の参加を得て好評でありました。公開保育研修事業も実際に保育・教育現場に行った研修であり、現場のスタッフが直接大阪の保育内容に触れ、それを現地の事情に即した形で活用できるというメリットがあります。この結果、様々な形で保育・教育現場で活用、応用されています。

また、シーカーアジア財団に設置した「保育教育教材開発センター」はこれらの研修事業で得た保育内容や保育教材を活用、応用するための拠点であり、現地のスタッフが講師となって指導的役割を果たしています。

9 組織・財政の現状

(1) 役員の変遷

役員については、3つの主要な団体会員の担当役員及び役員経験のある個人資格の会員によって長年担われてきました。幹事や任務の分担についても、それら役員経験者および独自の活動をしている組織の担当者によって担われてきました。

(2) 会員

会員数は2012年度末時点で、団体会員15団体、個人会員83人とピーク時に比べて大幅に減少しています。団体会員はここ数年の中で招聘研修を受け入れていただいた団体などの新規加入がありました。結成当初からの団体が退会あるいは解散したりして総数として減少しています。個人会員は新規加入後の一定期間は会費の納入をいただけますが、その後会費の納入が途絶えることが多く、新規加入も少ない中で減少しています。

(3) 財政

本来、会の経費は会員からの会費収入によって運営していくべきですが、収入に対して、会費の占める割合は16%と低い状況にあります。事業の費用を賄うには大幅に不足するため、その多くの部分をクラフト販売の収入で補っています。従来、クラフト販売による収入はサワディ基金に充当していましたが、総会の議を経て変更し、一般経費に充当することとしてきました。クラフト販売の中でもカレンダーのあっせんによる収入が大きい比重を占めています。

この結果、年間の収支でいうと、年度の初めは赤字で、年度後半のクラフト販売による収入で、赤字を補って、年度末の決算を行っているのが現状であります。

(4) 報告書、通信の発行

記念事業の報告書、ツアーの報告書などを印刷し、発行してきました。また、年間の活動の周知や事業の報告などを会員に知らせる通信をこれまでに90号を発行してきました。

(5) クラフト販売

SVAやタイのシーカー・アジア財団の協力を得て、現地の少数民族の手作りの袋などの製品を仕入れて販売して収入としています。クラフトは大阪マイペンライの構成団体の主催する集会などに店を出させていただいで販売しています。また、シーカー・アジア財団に少数民族の方が作る刺繍などをあしらったカレンダーの作成を依頼し、それを大阪の団体会員に斡旋してもらうことが大きな収入となっています。クラフト販売は財政の基盤となってきました。

10 構成団体の独自の取り組み

当会の活動への参加を契機として、いくつかの構成団体が独自の取り組みを進めています。

2004年のスアンプルー地区火災の支援活動では、部落解放同盟大阪府連、自治労大阪府本部、大阪府教組からの多額のカンパが寄せられました。

部落解放同盟大阪府連は2005年、スマトラ沖地震被災地復興で「支援委員会」を立ち上げ、被災された被差別マイノリティの救済などをめざして取り組みました。自治労大阪府本部は結成50周年記念事業の一環として2005年度より「ミャンマー難民キャンプでの図書館事業支援」を3年間の事業として取り組みました。また、大阪教組女性部は「アンコー会」の絵本活動に参加しています。

大阪市従市民生活支部（旧民生支部）では新支部結成を機に、独自に「現地での支援（学生寮・コミュニティーセンターの建設）」「翻訳シール絵本づくり」「スタディツアー」などを取り組みました。大阪市職民生支部でも、50周年記念事業として1997年度から5年間にわたってタイのNGOスタッフ（延べ9名）の長期研修事業を取り組み、その後も5年間の独自の短期招聘研修やスマトラ沖地震津波被害支援を取り組みました。大阪市職北区役所支部でも15周年記念事業として、独自の絵本活動が取り組みられました。

11 現地協力団体との連携、協力関係

大阪マイペンライの取り組みを進めるにあたって、現地のNGO団体のみなさんに協力なしには語りできません。ラオスやカンボジアとの交流については東京と現地のシャンティ国際ボランティア会（SVA）の協力を得て様々な活動を実施することができました。タイの各地での活動については、同じくSVAの多大な協力、現地のシーカー・アジア財団、ドゥアン・プラティープ財団の協力によって実施することができました。とりわけ、シーカー・アジア財団とは様々な事業の実施に当たって、緊密な連携を図って取り組み、目的を達成することができたと考えています。これらの諸団体、スタッフの皆さんに心より感謝します。

12 現地のNGO団体との相互の支援協力活動

大阪とアジアとの交流によってつながりが深まる中で、それぞれの地域が自然災害などで困難な状況に置

かれたり、新たな活動を進めようとしている時に、お互いに手を差し伸べる活動が展開されました。

(1) 阪神淡路大震災

1995年1月に発生した阪神淡路大震災においては、いち早く、タイのスラムや農村で集められた支援募金450万円が、「貨幣価値は違っても、何とか支援したい」との人々の思いとともにプラティープ女史によって届けられました。

阪神淡路大震災では、神戸の長田区のSVAの現地事務所と連携して大阪を中心とした保育・教育関係者が保育ボランティアを展開しました。保育ボランティアは95年2月5日をスタートとして、参加者は延べ700名を超えました。

(2) 「生き直しの学校」づくりの支援

ドゥアン・プラティープ財団がカンチャナブリで作ることとなった「生き直しの学校」に対する募金活動への協力を呼びかけました。このため、98年8月にプラティープ・ウンソンタム・秦氏を招いて「生き直しの学校を支援する大阪集会」を開催しました。

また、2002年、この「生き直しの学校」の運営を支援するための「アブラヤシ植林募金」に応じて、大阪マイペンライ会員に協力を呼びかけ、多くの協力をいただきました。

(3) ミャンマー難民キャンプ支援

ミャンマーの難民約19万人が暮らすタイ西部の難民キャンプへの活動を展開するSVAの取り組みを知り、それを支援する取り組みを行いました。2003年1月には「ミャンマー難民キャンプ図書館支援報告集会」を開催しました。また、図書館の支援のための募金を呼びかけました。

(4) スアンプルー火災救援

2004年に発生したバンコクのスラムであるスアンプルー地区の火災被害に対して、緊急の支援カンパを取り組みました。このカンパには団体会員が組織的なカンパを決定するなど、短期間に500万円を超えるカンパが集まり現地に届けられました。スアンプルー地区は地元の住民委員会やSVAなどの支援団体の努力によって再建され、地区内に新しい保育園、図書館も建設されています。

(5) スマトラ沖地震津波被害救援

2004年12月に発生したスマトラ沖大地震とそれに伴う津波被害に対して、SVAと連携して独自のカンパ活動を取り組むとともに、05年3月には「スマトラ沖大地震津波被害復興支援講演会」を開催し、支援を呼びかけました。

Ⅲ 基本方向と残された諸課題の整理

1 基本方向

大阪マイペンライの活動を、2012年度を持って終了し、大阪マイペンライの組織を2013年度中に解散することとします。

2013年度中にタイの協力団体との関係を整理します。

また、活動の中で継続する団体会員が継続して交流活動を継続する場合、タイの協力団体等との関係をつなげる努力を行うこととします。

2 時期 2013年度中に実施します。

3 個別課題の整理

(1) サワディ基金

タイの団体に預託している基金については、引き続きタイの2つの協力団体に預託し、その活用を委託します。活用方法については今までの運用方法にとらわれない方向についても了とします。大阪に保留しているサワディ基金については一般会計と合わせて残金が生ずれば、同じく現地団体に寄付します。

(2) 絵本活動

大阪の絵本グループが作成したタイ語の絵本について、現地で活用できるよう協力団体等に依頼します。

(3) 招聘研修 2012年度を持って終了します。

(4) スタディツアー（子ども含む） 2012年度を持って終了します。

(5) 会費 すでにいただいている2013年度分の会費については会員に返還します。

(6) ホームページ 会を解散することを掲載し、年度内に閉鎖します。

(7) 一般会計

総会の開催等のすべての手続きが終わった段階で会計を閉鎖し、財産の残がある場合はタイの2つの財団に寄付します。

(8) 資料の保存

自治労大阪府本部及び大阪市職民生支部に置かせていただいている大阪マイペンライの資料や資材については、活用できるものについては、総会等で配布するなど活用を図り、それ以外は処分します。そのうえで一定の期間保管が必要な資料等について保管場所の確保をめざします。

アジア保育教育交流推進実行委員会・大阪マイペンの歩み						
年	結成前の主な出来事					
1989	9月 部落解放同盟が呼びかけた国際識字年推進中央実行委員会にSVAが参加し、組織的な交流を開始。					
1990	2月 国際識字年推進大阪推進委員会がタイヘスタディツアー(バンコクのスラム関係者と交流)					
1991	10月 SVAのタイ人スタッフ3名を部落解放同盟大阪府連で受け入れ(日之出、住吉で交流) 12月 谷畑孝参議院議員らが呼びかけ、タイとバンラデシュへのスタディツアーを実施					
1992	5月 乳幼児発達研究所(現・子育て情報研究センター)15周年記念総会で「アジアの子どもたち—クローンイスラムの子どもたち」と題して、オンさんが講演。					
年度	主な出来事	総会	招聘研修	子どもツアー	スタディツアー	その他の事業
1993		4月 アジア保育教育交流推進実行委員会(以下愛称・大阪マイペンライ)が結成総会	第1回招聘研修を実施(タイから6名・スタッフ含む)		第1回スタディツアーを実施(タイへ25名参加)	絵本提供プロジェクトを開始
1994		第2回(泰・プラティープ夫妻が記念講演)	第2回(タイから7名)		第2回(タイ・カンボジアへ16名)	8月 絵本プロジェクトを設置 サワディ基金の給付を開始
1995	1月 阪神淡路大震災が発生。 1月30日 プラティープ夫妻が神戸支援で来日。タイ現地の住民が集めたカンパを手渡す。	第3回	第3回(タイから7名)		第3回(タイ・カンボジアへ18名)	2月 長田区でSVAと連携して保育ボランティア活動を実施 8月 戦後50周年「アジアの民衆との共生を考えるセミナー」
1996		第4回(SVA泰事務局長が講演)	第4回(タイ・カンボジアから6名)		第4回(タイ・カンボジアへ18名)	6月 郵政省国際ボランティア貯金の配分を受ける
1997		第5回	第5回(タイ・カンボジアから4名)		第5回(タイ・カンボジアへ24名)	
1998		第6回	第6回(タイ・カンボジアから5名)	5周年企画第1回子どもツアー(北タイへ6名参加・スタッフ含む)	第6回(タイへ12名)	3月 プラティープさんの「生き直しの学校」づくりを支援する大阪集会を開催 8月 大阪マイペンライ結成5周年記念「保育・教育セミナー」を開催。タイから4名参加。記念絵ハガキを作成、販売。
1999		第7回	第7回(タイ・カンボジアから5名)	第2回(北タイへ9名)	第7回(タイ・カンボジアへ23名)	10月 アジア子ども文化祭に矢田の太鼓(夢幻)が参加
2000		第8回	第8回(タイ・カンボジアから6名)	第3回(北タイへ6名)	第8回(タイ・カンボジアへ14名)	1月 「子どもとアジアの出会い」報告集会 3月 第2回保育・教育セミナーinバンコクを開催 10月 アジア子ども文化祭に北芝の太鼓が参加
2001	9.11アメリカ同時多発テロ	第9回総会・オラタイ・ブーンプラップさん(スアンブルー地区出身のタイの外交官)が講演	第9回(タイ・カンボジアから6名)	第4回・自立をめざすアジアの子どもの国際交流事業(社会福祉医療事業団助成事業)を実施(北タイ・西タイ・東北タイへ20名+スタッフ6名)	中止	社会福祉医療事業団助成事業を受ける
2002		第10回記念総会(プラティープ女史が記念講演、SVA・DPF両団体から感謝状が贈られる)	第10回(タイから6名)	第5回(北タイへ7名)	第9回(タイ・カンボジアへ19名)	3月 自立をめざすアジアの子どもの国際交流事業セミナーを開催 6月 中原亜紀さんを囲んで「ミヤマー・カレン図書館を支援する会」が集会 9月 有志がバーンサイワで第1回障害児保育セミナーをバーンサイワで実施。
2003	4月 森代表が大府府議会議員に当選	第11回	第11回(タイから5名)		第10回・10周年記念企画「障害児・障害者の生活に学びあうバーンサイワネットワーク」 「アジアに学ぶスタディツアー」(タイ・ラオスへ15名)	1月 ミヤマー難民キャンプ図書館事業支援集会を開催 7月 有志がミヤマー難民キャンプ図書館員ワークショップを実施 12月 障がい児保育、障がいの生活に学ぶワークショップ・スタディツアー
2004	4月 バンコク・スアンブルー地区で火災 12月 スマトラ沖大地震・大津波	第12回(SVA茅野事務局長が記念講演)	第12回(タイ・ラオスから6名)	第6回(北タイへ7名)	第11回(タイ・ラオスへ15名)	4月 バンコク・スアンブルー地区火災で救援募金呼びかけ
2005		第13回(SVA泰専務理事が記念講演)	第13回(タイ・ラオスから6名)	第7回(北タイ・4名)	第12回(タイ・ラオスへ10名)	3月 八木沢氏を招きスマトラ沖大地震・津波報告講演会
2006		第14回(元SVA渡辺有理子氏が記念講演)	第14回(タイ・ラオスから6名)	第8回(北タイ・4名参加)	第13回(ラオスへ10名)	
2007	4月 森代表が大府府議会議員に再選される	第15回(SVA東京事務所鎌倉幸子氏が記念講演)	第15回(タイ・カンボジアから6名)	第9回(北タイ4名参加)	第14回(カンボジアへ12名)	5月 15周年記念事業の実施を決定 11月 記念事業実施に向け「国際ボランティア貯金」配分金へ申請
2008	2月 スアンブルー地区の図書館・保育園が開園	第16回記念総会(SVA前専務理事秦辰也氏が講演)	第16回(タイ・カンボジアから6名)	第10回(北タイ2名参加)	タイの政情混乱で中止	国際ボランティア貯金寄附金配分事業 5月 バンコク研修事業(図書コーナー設置含む)実施 10月 ターソンヤン郡研修事業の実施
2009		第17回記念総会(シーカーアジア財団アルニー事務局長が講演)	第17回(タイ・カンボジアから6名)		第15回(西タイ5名、カンボジア5名)	国際ボランティア貯金寄附金配分事業 9月 バンコク研修事業の実施 2月 ターソンヤン郡研修事業の実施 保育園の改修事業・学生寮建設事業の実施
2010		第18回総会(SVA神崎愛さんが講演)	第18回(タイ・ラオスから6名)		第16回(西タイ3名、ラオス4名)	国際ボランティア貯金寄附金配分事業 10月 バンコク公開保育研修事業の実施 2月 バンコク公開保育研修事業の実施
2011	3月 東日本大震災・津波が発生。 4月 森代表が大府府議会議員に再選される	第19回総会(SVA中原亜紀さんが講演)	第19回(タイから3名)		第17回(タイ7名)	国際ボランティア貯金寄附金配分事業 6月 バンコク公開保育研修事業の実施 2月 バンコク公開保育研修事業の実施
2012		第20回総会(シーカーアジア財団ムアイさん、松尾久美さんが講演)	第20回(タイから3名)	第11回(北タイ5名)	第18回(タイ4名)	
	参加者の合計		112名	80名	259名	